

氏名	大 西 茂 明		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	乙 第 1632 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年 3 月31日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	運動負荷による右脚ブロックのSpatial Ventricular Gradient の変化（Frank法）		
論 文 審 査 委 員	教授 木村郁郎	教授 太田善介	教授 中山 沃

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

右脚ブロックに合併した一次性ST, T変化の評価を目的として、健常者20例、完全右脚ブロックのみの21例、心室内伝導障害のない虚血性心疾患（IHD）52例、完全右脚ブロックを合併したIHD16例の計109例にTreadmill submaximal負荷テストを行ない、負荷前後のVentricular Gradient（VG）を検討した。健常例、右脚ブロックのみの例では、運動負荷後VGのMagnitudeは著明に減少したが、Azimuth, Elevation の変化はわずかであった。IHD及び右脚ブロックを合併したIHDでは、安静時のVGのMagnitudeは小さくAzimuth, Elevation に異常なものがかなり見られた。特に陳旧性心筋梗塞例では、VGは梗塞部位から遠ざかる方向に偏位していた。運動負荷後は個々の症例でばらつきが大きかったが、VGの方向が大きく変化する例が多かった。以上の成績より、右脚ブロック例で、運動負荷前後のVGのAzimuth 20°, またはElevation 15° 以上の変化がIHD を検出する上で有用な基準と考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は運動負荷による右脚ブロックのspatial ventricular gradientの変化について臨床的に検討したものであるが、従来十分確立されていなかった右脚ブロックに合併した一次性ST, Tの変化の評価を目的として、運動負荷前後のventricular gradientを検討した結果、右脚ブロックの例で運動負荷前後にその方向が大きく変化する例が多く虚血性心疾患を検出する上に有用であることを認め、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。